

# ワークショップNO.6

## 「地域福祉と財源」



活動報告者(所属:伊藤雄司(唐津市社協)  
北田由希乃(社会事業大学)  
寺澤遥奈(早稲田大学)  
)

アドバイザー 宮城 孝(法政大学 教授)  
久津摩 和弘(山口県共同募金会)

地域担当者 藤沢英明

# 参加者状況

## 1. ワークショップ会場

ユープラザうたづ 視聴覚室

## 2. 参加者

セミナー参加者 8名

宇多津町関係者 28名（議員4名含む）

# 目 的

- 自治会組織がなく、戸別募金を十分に実施できない地域に地域住民が共感して寄付できるしくみを作りだし、これまで寄付をしてもらえなかった地域へのアプローチを試みる。
- 新たな募金手法を開発し、地域に根ざしたテーマ募金が地域の課題解決に役立っていることを地域住民に見てもらうことで、助成と募金の循環を生み出し、将来的には、自治会組織のない地域での新しいコミュニティづくりにつなげる。

# 展開方法(午前)



- 8:30 受付
- 9:00 開会 あいさつ 宇多津町長 谷川 俊博
- 9:10 講師よりねらい・目的の説明 宮城 孝(法政大学 教授)
- 9:20 宇多津町の紹介
- 9:30 活動報告(小・中学校応援プロジェクト募金)
- 9:50 パネルディスカッション
- ①中野盛太郎氏(PTA会長・プロジェクト委員長)
  - ②宮本隆義氏(ボランティア連絡協議会 会長)
  - ③二神朋人氏(宇多津小学校教諭)
  - ④岡田文明氏(募金者代表 本格手打ちうどんおか泉 代表取締役)
  - ⑤藤沢英明氏(宇多津町共同募金委員会)
- 11:00 休憩
- 11:10 講義:地域福祉課題解決のための財源確保基礎知識  
～お金がないで終わらせない福祉の実現に向けて～  
久津摩 和弘氏(山口県共同募金会)

第21回地域福祉実践研究セミナー in 香川・中讃

【全体テーマ】地域福祉の新たなステージに向けて  
～香川県！地域ソーシャルシステムの構築～



ワークショップ6  
地域福祉と財源  
アドバイザー

A panel discussion is taking place in a conference room. Seven panelists are seated at a long table, each with a nameplate. The audience is seated at tables in the foreground, some looking towards the panelists and others at documents or laptops. The room features a large projection screen at the front, a whiteboard, and several speakers. The atmosphere is professional and focused on community welfare research.

Panelist Nameplates (from left to right):

- パネラー
- 前プロジェクト委員長 中野盛太郎 氏
- ボランティア連絡協議会会長 宮本隆義 氏
- 宇多津小学校 教員 一智明人 氏
- 募金者代表 おか泉代表取締役 岡田文明 氏
- 宇多津町共同募金委員会 藤尾美由 氏

Other visible text:

- アドバイザー
- 1
- お茶が

第21回地域福祉実践研究セミナー in 香川・中讃

【全体テーマ】地域福祉の新たなステージに向けて

～川口第一地域センターの取り組み～

### 久津摩 和弘 (Kazuhiro Kuzuma)

#### プロフィール

山口県中島、山口県社会福祉協議会に入社後、社会生活自立支援事業、法人経営  
支援支援を担当。2011年より、山口県内各郡市へ出張し、フレイル・フレーズ・フレ  
ミー・社会貢献の視点からフレイル・フレーズの予防、改善、地域福祉・フレイル  
・フレーズ・フレミーの予防・改善の視点から、2012年、日本最大規模の寄付付き商品  
企画「ふるさと産物プロジェクト」を立ち上げる。日本の地域福祉におけるフレイル・フレ  
ーズの研究等を行う。社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO法人、社会福祉法人、  
中興支援協議会、財団法人、大学、自治体企業等で「フレイル・フレーズ・フレミー」に関  
する講演や研修等を行う。また「フレイル・フレーズ・フレミー」に関する書籍も刊行。  
主な執筆等

- 「フレイル・フレーズの予防から改善までの実践的アプローチ」『福祉と生活』の連載、  
フレイル・フレーズの予防から改善までの実践的アプローチ
- 「フレイル・フレーズの予防から改善までの実践的アプローチ」『福祉と生活』の連載、  
フレイル・フレーズの予防から改善までの実践的アプローチ
- 「特集 活い、笑顔を取り戻す高齢者フレイル予防の地域づくり」『寄付付き商品の開発から』  
生活福祉総合情報誌『福祉』2013年10月号（2013年11月）掲載
- 「地域福祉におけるフレイル・フレーズの予防・改善報告書について」  
厚生労働省委託事業「社会福祉協議会の研究、フレイル・フレーズに関する  
調査研究事業」(2013年12月)社会福祉協議会刊



フレイル・フレーズ  
地域福祉の新たなステージ



# 展開方法(午後)



13:00 ワークショップ

4グループに分かれて、企画案をワークシートに基づいて協議  
テーマ例

1. ひきこもりの若者の居場所がない
2. 町民の防災意識が低い
3. 子どもの貧困(学習支援・フードバンク等)
4. 認知症高齢者の徘徊
5. 子育て世代の孤立
6. 高齢者の孤立(孤立死・犯罪等)
7. 障害者の親亡き後の不安

16:30 グループ発表  
まとめ・講評

17:30 閉会





第21回地域福祉実践研究セミナーin香川・中讃  
【全体テーマ】地域福祉の新たなステージに向けて  
香川県！地域トータルシステムの構築

ワークショップ⑥  
地域福祉と財源  
アドバイザー  
山口県民  
法政  
久津

★

ワークシート⑥

- ① 子どもの権利条約の目的を再考する
- ② PIAの活用
- ③ 子どもの権利条約の目的を再考する

子どもの権利条約の目的を再考する

子どもの権利条約の目的を再考する

子どもの権利条約の目的を再考する

Presenter: A man in a purple shirt holding papers, standing on a small stage.

Advisors: Two men in light blue shirts sitting at a table with laptops and water bottles.

Participant: A man in a grey suit sitting at the front of the room, facing the presentation.

1



Water bottles: Several green bottles of 'お茶' (tea) on the table.

# 結 果（企画案は別紙）



1グループ

2グループ

3グループ

4グループ

# 考 察



- 住民の共感を得るためには、取り組みや手法ありきではなく、誰が困って苦しんでいるのかなどといった問題を示す。
- 取り組みの必要性が揺らがないよう、必要性を高める情報をしっかり集める
- 「これが最善の方法だ」と自信を持って言える解決手法の案を理想の方法でいいので出す
- どのようなターゲット(複数)に、どのようにアプローチするか  
ファンドレイジング計画(活動資金、複数のツールなど)を明確にすることが、今後の地域福祉実践に不可欠

# 参加しての感想



成

日本地域福祉研究所作

複写禁